

2 学校関係者評価

(5) 学校関係者評価

実施日 令和5年2月26日(月) 13:30~15:30

会場 押原小学校 図工室

参加者 学校運営協議会 委員14名

1 学校から提案された資料

- ・令和5年度 自己評価
教職員アンケートの結果と考察
保護者アンケートの結果と考察
児童アンケートの結果と考察
令和5年度の自己評価の結果と改善点

2 協議された主な内容

- ・令和5年度 学校の自己評価についての質疑・意見
- ・来年度に向けての意見・改善策

○自己評価の概要

- ・保護者・児童アンケート(各15項目)全てにおいて、肯定的評価【1そう思う 2ややそう思うの合計】が9割を超えている。本年度の教育活動について、おおむね目標を達成し、理解が得られていると考える。
- ・【学校教育目標・学校経営について】
充実した教育活動が行えるよう努力し、PDCAサイクルを意識して取り組んできた。しかし様々な課題を抱える児童もいることから、課題を丁寧に確認し改善につなげていく必要がある。また、若手職員が増えてきていることから、OJT(実際の仕事を通じて知識・技能を身に付けさせる指導法)を活かして若手の育成を図りつつ、学校としての課題解決を目指したい。
- ・【今年度の重目標について】

(1) 安心・安全の保障

児童の安全な登下校について、沼公園の事例を含め、学校としてできることに取り組んできたが、保護者からは周知が不十分だったという意見もいただいた。感染症対策については、インフルエンザによる学級閉鎖も複数出ていることから、引き続き気を付けて取り組みを行っていく必要がある。

(2) 学力の保障

一人一台 PC の活用も工夫しつつ、授業改善に取り組んできた。昨年度から始めた家庭学習の取り組みについては、これまでの取り組みを定着させつつ、さらに取り組み内容の向上につなげていきたい。

(3) 信頼の醸成

感染症の 5 類移行に伴って、様々な行事が実施できるようになってきた。町の重点校の指定を受けて取り組んだCSでは、地域や保護者の協力を得ながら様々な活動を行い、CS 活動を進めることができた。

「先生たちからの連絡やお便りなどきちんとお家の人に伝えている」について児童の評価が下がっていることから、何を知らせるお便りなのか、意図も説明しながら配布するなど、教師側の工夫も求められる。

また、児童の自己肯定感を高められるよう、家庭訪問や個別懇談などの機会を有効に活用し、児童の良いところや頑張っているところを積極的に家庭に伝えていきたい。

(4) 参加の促進

「押杜っ子を守る会」「地区懇談会」などの懇談会も再開し、給食試食会、夏のPTA早朝作業も実施することができた。またCSの取組みとしてサマースクールや、ふるさと探検を実施し、児童の学習にもかかわっても、生活科や総合的な学習の時間を中心に地域や保護者の皆様に御協力をいただくことができた。「学校運営協議会」と「地域学校共同活動」の連携を探りながら、CSとして 10 年目の節目、新たな一歩を進められた 1 年であった。

〈 質問・意見 〉

○安全・安全の保障にかかわって

・沼公園の「じゃんけんおじさん」については、保護者・地域・教育委員会・安協、縷々協力をいただいた。そう言った対策をすぐに学校が行ってくれたこと、また、そういった対策を今後しないでよくなったことにほっとしている。関係者の皆様の御協力ありがとうございました。

→終焉について、デリケートな問題を含むため、メール等では連絡をしなかった。

関係各所に連絡が行き届かなかったところは、反省点である。

・登下校の安心について

先生方が日ごろから行っているのに対し、保護者の意識は少し違っている。保護者からは、通学路を守らないで抜け道を通っているという話も聞く。学校での指導を徹底してほしい。
→貴重な意見をいただいたので真摯に受け止め、指導していきたい。

学校でも、登校指導等、機会をとらえて繰り返し行っている。また、下校時も、1 年生から 4 年生は、可能な限り、同じ地区の児童で集団下校をさせている。

一方で、子どもが下校時刻を過ぎても帰ってこないという連絡も何度かいただいた。往々にして友達の家で遊んでいるなど下校の約束を守っていないことが原因であった。安全

や所在の確認は通学路をおっていくことから、しっかり守れるよう指導していきたい。

・いじめについて

中・高学年の中から「いじめ」という言葉が出てきている。このあたりのことは今、不登校・居場所づくりということでも話題になっている。地域としてもできることをしたい。

3年、5年の児童からいじめという言葉が出されている。一方で6年生からはいじめのない素晴らしい学校という評価が上がっている。学年によってなのか、たまたまなのか、教え方に差があるのか、そのあたりの学校としてのとらえ方を聞きたい。

いじめについて学校はどのようにして実態をつかむのか、起きた時にどのような体制を組んでいけるのか。

→いじめについては、年に3回、いじめアンケートを行い児童の実態を調査している。児童の数に応じて相応の数が出てくる。山梨県は全国のかなでも把握された数としては多いが、数が多いのは、積極的に扱っているからだとして問題視はしていない。大切なのは、それをそのままにしないこと。数としては、0にはならないが、重篤な問題は抱えてはいない。

→不登校についても、毎月長期欠席者の数を取っている。今は、不登校児はいない。これは学校だけの取り組みではなく、保護者の協力によるところも大きい。保護者が寄り添い、付き添って学校へ来て、見届けて帰るということをしてきている御家庭もある。保護者・地域の理解があった。また町の受け皿があることもありがたい。不登校の児童が出ないように支援していく。

→教師の指導力不足で、子どものニーズにこたえられないフラストレーションが友達へと向かっている。職員に対しての校内指導を行っている。幸いにして不登校には至っていないが、進級にあたりしっかりと対処していきたい。

また、様々な課題を抱える児童の実態について、保護者だけでなく、外部にもつなげお力添えをいただいている。

友達同士の関係については、根は深く、保育園幼稚園に遡っての関係もあり、保護者も巻き込んだ案件もある。

○参加の促進にかかわって

・CSについて

学校からふるさと探検の話があり、地域にも協力していただいた。役員会でも話をさせてもらい、回覧でも大勢の地域の人にも参加してくださいと呼びかけた。数名だったが、地域の人にも参加してもらうことができた。地域との交流が支え合いにつながっていく。

災害が多い中、地域の関わり合いが大切で、ああいっただ行事から地域へと伝わっていくとよいのかと思う。

ふるさと探検にかかわって、訪問の場所「堀ぬき井戸の場所」は変則交差点があり、車が

通る場所であることから危険である。場所の選定ができるのであれば検討してほしい。

2年続けての探検で、場所も同じであった。2~3年たてば、場所を変えて、あるいは内容を変えて行くことも検討できるのではないか。

トロッコ道に記念碑がある。見づらいので区としても直したいと考えている。釜無工業団地の経緯もある。史跡文化もいいが、目先を変えて、そういったものもどうかと思う。

→地域の人々とは、学校の行事なので、あくまで学校としては本校保護者を中心に考えている。学校関係者でない方々の御参加は難しいと考える。学校が想定する地区の人々とは、保護者+α。2年続けて参加された方々から、4区ともやり残したことにメスを入れたいというご意見をいただく一方で、親子そろってはもういいかなという意見もある。来年度は休止として、新たな連携を模索していきたい。

○全体にかかわって

保護者のお褒めの言葉からも、押小の先生方が熱心に取り組んでいることが伝わる。ほめていただいたことを伝え、励みにしてもらいたい。

「そう思う」「ややそう思う」合わせると90%ということは、思った通りの学校であるということ。先生方の普段の努力のおかげだ。児童の意見にも「楽しい」「ありがとう」と書かれている。そういう意見を増やしていければと思う。「もっと もっといい学校」という思いが子どもたちの言葉からも感じられる。

学校評価もよい評価である。保護者の意見を見ると反省もある。12月の実施なので、フィードバックを早くする方法を考えてほしい。

令和2年度から始めているということで、長い間の苦勞の結果だと思う。以前のことに触れて経年の様子がわかるとよい。学校・保護者・子どもと家庭の連携が大事。

「先生は」という質問事項が多いのでアンケート内容の改善も考えていく必要があるのではないか。

経年比較できるものは、その間の変化を見ていくことを取り入れるのも1つの方法。

「アンケートの項目」やアンケートが答えを誘導していることもある。できるだけ実態がつかめるように、今後も検討を重ねていただければと思う。